

令和3年度 学校評価書

評価の基準 (3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった)

項目	小項目	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて		
		小項目 評定	項目 評定	現況	項目 評定		意見・提言等	
主体的・対話的で深い学び	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践		2	○コロナ禍ではあったが、各学級の努力は素晴らしかった。授業改善、指導改善を経て、子どもたちが学ぶことの楽しさ、大切さを実感できるようにさらに進めていけると良い。 ○校内研究を中心に「協同的な学び」の授業実践を積み重ねることができた。さらに、日常的、継続的な取り組みにまで高め、子どもたちの温かい関係づくりにつなげたい。 ○与えられた課題に対して意欲的に取り組み、友だちと話すことも好きな子が多いように感じる。	2	・教師の力量によって、ICTの活用の仕方に差が生じると感じている。 ・タブレットを活用して個人の思いを知ることができる一方で、先生方の仕事量の増加につながり、負担感を感じておられるように思います。 ・タブレットの使い方で、意見や考えを伝え合えるようになっていくと良いと思います。	・ICTの活用に関して各教員がOJTで力を付けることと、自己研鑽を積んでいく必要がある。 ・「協同的な学び」の学習に関しては、継続して取り組んでいくことが大切なので、次年度も感染症対策を講じながら可能な限り取り入れていく。 ・校内研究会では、講師の指導を受けながら、自分たちの研究や実践を深めるように努める。 ・自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け入れることのできない児童に対して、丁寧に複数の目で見えていくことと家庭へつなげていくことが必要である。 ・聴き合う力(聴く姿勢、反応、わからないこと・もっと知りたいことを質問するなど)がきちんと身についていない。低学年からの積み上げが必要である。 ・「協同的な学び」の目指す具体的な姿を見られたらよかった一校内、校外も含めて授業の見合いを促進していく。	
	2 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善 (ICTの活用含む)		2	2	2	▲コロナ禍でペアやグループ学習ができない状況が続いたためか、学習中の話す聴く力の積み上げができてないと感じる部分がある。 ▲子どもをつぶやきや意見、考えをひろって、つなげたり広げたりしていきたいが、上手くできていない。 ▲効率的に単元を終わらせることを考えたり、やらねばならない事に追われてしまったりしている。		
	3 主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会			2				
道徳教育の充実	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施		2	○日頃から、道徳で学んだことを返ったり、日頃の生活に生かせるように掲示物を準備する。  ▲より揺さぶりをかけられるような展開の仕方や、子どもの実態に合った題材を考えていくことがなかなか難しい。 ▲生命を尊重、いじめ、人の気持ちなど、実際にその場面に遭遇しないとわからない、理解していない子が多い。 ▲情報モラルや人権意識なども含めて、教員の意識の向上も必要。 ▲道徳の授業だけで道徳性や道徳心について考えるのではなく、道徳で学んだことをどう生活に生かすかが大事。	2	・マスクを着けていることで、感情が伝わりにくくなった反面、子どももつけてる方が落ち着くと言っている。 ・今までよりも当たり前なこと、モラルや人権など大切にしていほしいと思う。 ・課題に対応した取り組みを今後に期待します。 ・情報モラルについて親子で共有したいので、こんな事例があった等知らせしてほしい。	・正しい答えを言おう、書こうとする子どもが多く、正直な答えを表出することが難しいようである。自分の感じたことをそのまま道徳ノートに表せるよう、支援していく。 ・手作りの道徳資料がもう一息、整理されてなくて使いにくい。再度、整理して共有の財産としたい。 ・道徳教材通りに進めてしまうと、発問が分かりにくかったり、思いを書き込めなかったりする児童がいたため、児童の実態に合わせて展開するように工夫したい。 ・道徳参観が来年も分散なら、2校時と4校時ではなく、2週目と4週目等にすれば全員に道徳が公開できる。 ・これまでより道徳科の充実を図るには、学校全体で共通のテーマや考え方をもち、子ども達の学習の足跡がわかる掲示物の充実や積極的に校外研修に参加する必要があると感じる。 ・いろいろな生活の場面で、正しい判断ができる実践力を育てていかないといけない→保護者への啓発を増やす。給食時間に放送で全校に良い行いを伝えていく等 ・評価を取るための授業であってはいけないと各自で再認識することが大事。	
	5 道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流		2	2	2			
	6 保護者等への道徳科の授業公開			2				
体力づくり	7 たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善		2	○活発な子が多いので、その良さをこれから生かせると良い。 ○環境整備を体力部でしていただいているので、ありがたい。 ○コロナもあり、以前ほど体力向上という言葉が聞かれなくなってきた。「昔と比べて」などという尺度に捉われず、今の時代に必要な体力とは何かを考え、無理なく体力づくりに取り組んでいくのが良い。 ○雄琴スーパートライのような全校的な取り組みがよかった。活動をさらに浸透、活性化させていきたい。	2	・体を動かす楽しさに気づけてない子へのアプローチが難しい。 数値設定よりも楽しさを重視できると良いと感じる。 ・子ども自身も体力が落ちていると感じている。	・雄琴スーパートライなど、体育部主体で取り組んできた活動に学年で偏りが見られた。 ・体育部提案の準備運動が、月ごとに内容が変わるとさらに良い(二ヶ月間同じと気があったので)。 ・備品を増やして、いろいろな手立てを講じたい。運動の楽しさ、気持ち良さを体験させてやるのが、これからのために大切。 ・器械運動で怪我が多かった。各学年の目指す技などをしっかり確認して指導すること。体育部で器械運動の系統性を整理し示していく。	
	8 体力づくりを推進する運動実践		2	2	2	▲運動が好きな子と苦手意識のある子の差が大きい。		
	9 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成			2				
指導改善(組織的・計画的)	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善		2	○「協同的な学び」という明確な目標ができたため良かったと思う。 ○今年度、タブレットの導入に伴う授業の変化は目覚ましいものがあった。情報主任と担任の努力と適応力の成果だと思う。 ○毎日フィードバックをしているおかげで、原因や対策を考えて日々の授業を改善することができている。 ○会議の削減、校支援の活用等で働き方改革は進んできている。 ○タブレット研修やOJTが、短時間でこまめにあるのがやりやすく、学校全体で指導改善に取り組んでいると感じられる。	2	・校種間交流などされていると思うが、コロナで難しいこともあるかと思う。今では校内でできる範囲で授業見学がなされていると良いかと思う。(なかなかお忙しい中なので難しいとは思いますが) ・ICTの活用により、子どもの学力に合わせた演習の時間を設けることができるのか?特に苦手分野の解消に向けて...	・タブレットが導入され情報活用に関して教育力を上げたいので、校内研のテーマとからめる。 ・ステップアップの時間を活用して、基礎的な力の定着を徹底する必要がある。 ・学校生活支援員を週1時間、高学年に配置する(算数の基礎学力定着のため・ステップアップタイムを大事にするため)。 ・教師間で、授業の話をもっとするべき。 ・「協同的な学び」に関する取組においては、まず「聴き合う」「学びを深め合う」関係づくりに力を入れていきたい。 ・漢字の定着が悪い→読み先行の漢字学習を進めてはどうか? ・読書に没頭できる時間が少ない。月に1時間くらいで全校読書の時間を設定する。 ・働き方改革への取組・退勤目標時刻の設定・行事や会議の精選を進める。	
	11 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上		2	2	2	▲もっと教科指導について学年だけでなく、いろいろな先生に聞いて学んだらいいのになあと思う。 ▲勤務時間内に仕事を終わらせるために、行事、会議等を精選していく。		
	12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善			2				

育ちと学びを支える連携									
①	家庭・地域との連携・協働	13	保護者の子育てに対する積極的な支援	2	<p>○登下校をはじめ、地域の方の支援によって成り立っている部分が多い。 ○地域との連携は多方面で進んでいる。 ○コロナ対策をとりつつ、家庭地域との連携活動はすすめられた。学校運営協議会を通して地域協働の道筋はできつつある。コロナ対策を講じつつ、やれることから進めていけるとよい。</p> <p>▲地域協働活動を今後継も続するためにも教育課程の中に地域人材の活用について位置づけ、計画するとよい。 ▲PTA、ボランティアなど保護者と一緒に活動できる機会も増やしていければ良い。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練を今までと違った内容にしてみてもどうか？</li> <li>・学区の防災訓練に参加してみてもどうか？</li> <li>・地域と学校の連携した防災教育はできないか？</li> <li>・地域と連携は大切だと感じるが、保護者によっては意識が低い方もおられる。何とか伝わってあげたいと思う。</li> <li>・懇談の時に画像を見せてくださった先生がおられすごく良かった。日頃の様子を残しておいていただけたらうれしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で指導する内容、家庭で指導する内容の線引きを意識してもらえるように、家庭に発信していく必要がある。</li> <li>・コロナで難しいが、地域人材の活用も考えていきたい。</li> <li>・学校行事や校外学習の日程を踏まえた上で、学習参観の回数を見直すことを検討するべき。</li> <li>・「○○欲しい」「こういうお手伝いをお願いしたい」などの掲示板をHPに作る。教務だけでなく担任も地域の方と繋がるようにしなければいけない。雄琴キッズ作戦会議やヨシ刈りなどに職員が顔を出せると良い。</li> </ul>	
		14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2					2
		15	防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	2					2
②	保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	1	<p>○日吉サミット、幼稚園の訪問等をコロナ禍の中でもやれることを進めることができた。 ○研修など、機会を増やすのは良いと思う。</p> <p>▲幼稚園が遠くなってしまい、児童、園児、教師、それぞれにとってのデメリットを感じている。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼から小学校への移行については、各学校単位でできることは限られていると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を講じながらも、何とかして子どもたちの校種間交流ができないものか。</li> <li>・学推の開催方法について見直す時期がきている(授業研究会・Zoomの使用・校種間のカリキュラム研究など)。</li> <li>・他校の公開授業や研究会を受け、本校の授業に積極的に役立てる必要性を感じた。</li> <li>・生徒指導・いじめ対策・いじめや暴力行為、不登校等早期発見、予防指導・生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な対応。</li> <li>・家庭・地域・関係機関との連携による指導の構築。</li> </ul>	
		17	校種間の授業公開や合同研修会	2					1
		18	保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	1					1
組織的体制の充実									
①	生徒指導体制の充実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	2	<p>○報連相シートの活用やいじめ報告など、積極的に行うことができた。そのおかげで日々小さなことはあるが、大きな案件にはつながっていないと感じる。 ○生徒指導連絡会の定例化、組織的な対応ができた。 ○朝の登校の様子を見守ったり、昇降口にいることで子どもや保護者とつながれると思った。 ○生徒指導や教育相談担当から、担任が知らない場面での子どもの良い行動や気になることを、普段からよく伝えてもらえた。それが生徒指導の予防や攻めの生徒指導につながっていたと思う。 ○児童のトラブルがあった時に、担任は加害と被害の板挟みになる。今のように生徒指導の先生方が間に入ってもらえると安心。</p> <p>▲普段から教師、子ども間で話しやすい環境を作ることが大事。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校の見守りはとても有意義だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉づかいが悪く、そこからトラブルになりがちなので、家庭での会話も重要だと伝えていく。</li> <li>・報連相シートや教師間のコミュニケーションを充実させることで、これまでよりも組織的な対応ができるとともに、担任以外が話を知らないという状況を改善できた。</li> <li>・登校時に玄関にいて遅れてくる子、行きしぶりの子と出会うことも大事。</li> <li>・朝に教室で子どもを出迎える姿勢は大事。今後も続けていくと良い。</li> </ul>	
		20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進	3					2
		21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	2					2
②	特別支援教育の充実	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	3	<p>○スクールカウンセラーと学級との橋渡しを教育相談中心にしてもらっているので安心だった。</p> <p>▲配慮を要する児童に対して、もう少し全教職員で共有できると良い。 ▲個別の支援を担当任せになっている場合がある。 ▲個別の指導計画の作成に時間をかけるものの、活用は不十分になってしまっている。 ▲こちらが感じることはたくさんあるが伝え方や伝える機会をもっと増やさない、保護者との共通理解が進まないと感じている。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大津市の関係機関との連携をもっと密にしてほしい。</li> <li>・個別に関わる指導が学校側から見て必要なくなった子は、そのように伝えていくと良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級の児童理解教育や児童理解のための授業を年度早期にすること。</li> <li>・保護者との丁寧な相談が必要。</li> <li>・個別の指導を要する児童の保護者と密に連携を取り育ちを支えていくことが大事。</li> </ul>	
		23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2					2
		24	関係機関と連携した相談体制の充実	2					2